令和７年度　学校経営ビジョン　　【　体・徳・知の調和のとれた人間性豊かな実践力のある子どもの育成　】

4：期待どおり　3：ほぼ期待どおり　2：やや期待を下回る　1：改善を要する

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	手段	ポイント 児童	ポイント 保護者	ポイント 職員	自己評価	結果の考察・分析および改善策等	学校関係者評価 意見	学校関係者評価 評価
【知育】	■目標 「確かな学力の定着と向上」 ■手段 1　「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現 ・NINO、学習状況調査等の実態分析を基にした授業改善 ・ICTの効果的な活用（職員評価３以上） ２　読解力・表現力の育成 ・MIM、論理力ノートの定期的な活用 ３　地域との連携 ・地域素材・人材の積極的かつ効果的な活用（職員評価３以上） ・学校運営協議会等との連携	1 2	3.6	3.2	3.1	3.2	○　認知能力検査NINOを分析・活用することで児童の実態を把握し、学級・個人に適した支援を考え、授業実践を行った。また、朝の時間を活用し、算数科や国語科の基礎問題に取組み、学力の向上を図った。 ○　児童自らが問いをもち主体的に学ぶことができるような授業を展開する中で、児童同士の学び合いの時間を設けるとともに、個の実態に応じた指導の工夫を行った。	○　個別最適な学習を展開するには、NINOの結果が大きな力になる。特に通常学級で支援を要する児童への配慮で授業も盛り上がる。 ○　子どもたちは、授業の中で積極的に手を挙げて発表できている。 ○　タブレットの効果的な活用が学習に深まりやスピード感をもたらしている。 ●　ICT機器を活用しての授業で、児童同士の学びがある中で、実際に子どもたちは、活用できているのか、指導する上での難しさはあるのか気になるところである。 ●　情報リテラシーの知識を児童と保護者に伝えてほしい。 ●　ICTを取り入れることにより、先生方はより大変だと思う。しかし、小規模校ならではの特色がだんだん薄れているようにも感じる。色々と左右されて、大変だとは思うが、早く軌道に乗ってほしいと思う。 ●　地域の素材、人材の活用は今後の課題ですが、進めて行こう。人材バンクの活用となると打ち合わせ時間、内容等確認が必要となる。 ○　定着した学力を使って、多角的な視野や筋道を立てて説明することが生きて働く学力につながるので有難い。 ○　多忙な学校生活の中で、読書の機会が確保されていてありがたい。 ●　読み聞かせボランティアの活動が、一人当たり学期１回ということで相談を受けたが、校時程上困難であることが分かった。ボランティアへの説明があると納得されるだろう。 ●　読書や家庭学習の項目は、保護者の正直な回答で実態を知ることができた。保護者の協力が難しい。親世代もSNSにかかる時間が増加しているのが要因であろう。	3
		1	3.8	3.4	3.2		○　ICT機器（タブレット）を効果的に活用して、「個別最適な学び」や「協働的な学び」につなげることができた。また、授業用支援アプリやドリルを活用し児童の基礎学力の定着や情報教育の充実を図った。		
		3		3.3	2.6		○　授業支援として保護者や地域の方、南九州大学の学生に来ていただき、学習の充実を図った。 ●　職員からは、地域素材や人材について、知らない部分も多く、活用するにはまだ難しい状況にあるという意見があったので、学校運営協議会と連携して人材バンクの作成を行っていく。		
		1 2	3.2	3.0	3.1		○　言語活動の充実を図るため、思考ツール（ワークシートやロイロノート等）を導入し、根拠を可視化する工夫を行った。これにより、対話の場面では「なぜなら～」といった根拠を伴う発言が増えた学年もあり、多角的な視点から物事を判断し、筋道立てて説明する力の育成につながった。		
		2	2.8	2.0	3.2		○　読み聞かせボランティア活動を実施し、保護者や地域の方々にご来校いただくことで、児童が本や活字に触れる機会の充実を図った。さらに、授業や昼休み時間等では、図書室や学級文庫を活用し、読書をする時間を確保した。今後は、この活動を基盤に、児童一人ひとりの読書活動がさらに習慣化するよう、取り組みを充実させたい。		
		2	3.5	2.0	2.9		○　家庭と連携して、家庭学習の習慣化と充実を図ることで、読解力や表現力の育成を図った。 ○　児童の学習意欲と学習内容の定着を図るため、ICT機器を用いた課題提示や分量の最適化を行い、個々の児童が主体的に取り組める環境を整えた。		
【徳育】	■目標 「積極的な生徒指導の展開と豊かな心の育成」 ■手段 1　基本的な生活習慣や態度の定着 ・あいさつ・返事の習慣化（児童・職員評価３以上） ・きまりの意味を考え、主体的に守ろうとする態度の育成（児童・職員評価３以上） ２　児童への共感的理解 ・個の特性を理解し、見届けを大切にした教育相談 ３　望ましい人間関係の育成 ・いじめ未然防止に向けた主体的な取組（児童評価３．５以上） ・清掃、集団登校等による縦割り活動の充実	1	3.6	3.2	3.3	3.3	○　あいさつや返事の習慣化を図るとともに、進んで、気持ちのよいあいさつができるように、家庭や地域と連携した指導や見届けを行った。 ○　毎月、各学年や登校班のあいさつ名人を選出し意識付けを図った。	○　いつも元気よくあいさつができている。 ○　小学校へ訪問するたびに、児童の皆さんがしっかりとあいさつをしてくださり、気持ちがよい。 ●　みまもりたいには、あいさつをするようになってきたが、保護者立番や地域交通安全係の方にも元気よくあいさつができるようになるとよい。 ○　交通事故がなくて良かった。安全意識があると安心である。 ○　学校生活態度＝自宅の生活態度の子どもはそういないと思っている。その中でも、集団生活でしか学ぶことができないことは、たくさんあると思うので、引き続き期待したい。 ●　身の回りの整理整頓や準備などについては、保護者が実践できていないと自覚している。忘れ物が学力に与える影響を伝え続けるしかないのか。 ○　毎月のいじめに関するアンケートが有難い。担任と話す時間がなかなかとれないので、悩みや意見を吸い上げる機会となる。一回一回の対応が教育相談の質を上げる。 ●　小規模な学校である良さを生かし、一人一人の個性を理解しあえる関わり、いじめのない学校生活が送れるよう地域と共に取り組んでいく必要があると感じる。 ●　働き方改革を掲げながら、保護者との連携の難しさを感じる。いかにいじめなどの未然防止に力をいれるかがポイント。「宮村小ハッピープロジェクト（あいさつ・交流・命）を学校・家庭・地域が常に意識しておくことが、「いじめ未然防止推進校」としての取組に血を通わせると思う。	3.2
		1	3.7	3.3	3.2		○　学校生活や放課後の過ごし方等のルールやきまりを守ろうとする態度が身に付くように、家庭や地域と連携した指導の充実を図った。		
		1	3.4	2.2	3.1		○　身の回りの整理や準備・後始末をする態度が身に付くように、学校では日常的に指導を行った。ただ、家庭では習慣化が難しいという結果だったので、家庭と連携した取り組みが必要である。		
		2 3	3.6	3.2	3.5		○　児童アンケートを毎月実施するとともに、教育相談や教師間の情報共有を行い、学校全体で、いじめ防止や不登校対策を行った。児童の数値は高いものの保護者の数値が児童に比べて低いことから今後も事案に対して丁寧な対応を行い保護者と連携して対応していく必要がある。		
【体育】	■目標 「健康教育の推進と体力の向上」 ■手段 1　健康的な生活習慣の定着 ・保健学習、保健指導の充実 ・家庭との連携（保健指導の充実） ２　体力の向上 ・体育科学習の充実 ・スクールスポーツプランに基づいた取組の推進（目標達成） ３　学校安全の充実 ・安全に活動できる施設環境の整備 ・児童の資質・能力を高める安全教育の実施	1	3.6	3.4	3.2	3.4	○　健康的な生活習慣の定着と感染症対策の徹底に努めた。	○　夏のプールでは、熱中症にならないように、冬はインフルエンザなどの感染予防等、とても大変な１年だったと思う。子どもたちのためにありがとうございます。 ○　温暖化もあり、熱中症対策、児童の健康面を常に把握しながら、学校生活を送れるよう話合いの場を設け、取り組まれているのだと感じた。 ○　生活習慣・感染症・熱中症・雷まで、多くの対応をしていただき安全が守られた。ありがたい。安全が守られているので、大けががなかった。安全な学校生活が有難い。 ○　保護者が健康に対して努力していることがうかがえる。もっと低いと思っていた。 ●　１１月に新聞で、１月にNHKで、宮崎市の「包括的性教育」の取組が紹介された。宮崎県は、１０代の妊娠中絶が全国トップクラスと言われ続けている。「包括的」であってこそ、性教育が効果を上げていると思う。宮崎市の事例を知りたい。	3.4
		1	3.2	3.3	3.2		○　熱中症対応で運動量の十分な確保が難しい時もあったが、ルール等を工夫して体力向上に向けた授業や学校行事の充実、外遊びの奨励を行った。また、水泳指導時は雷探知機等を活用したり、午後の気温上昇の恐れがある場合は、午前中のみの活動に切り替えたり安全面への対策を行った。		
		2	3.7	3.5	3.1		○　廊下歩行や教室での過ごし方、交通安全、毎月１回の校舎内外の安全点検等を含めた安全・安心な学校環境づくりや安全指導の充実に努めた。		
		3	3.4	3.4	3.4		○　健康の保持増進に向けた取組（早寝早起き朝ごはん、歯みがき、むし歯治療等）を家庭と連携して行った。		
【その他】	■目標 「地域とともにある学校づくり」 ■手段 1　地域・保護者への情報発信 ・学校通信「アオバズク」の発行（年８回以上） ・学校ホームページの積極的な更新 ２　学校運営協議会との連携 ・学習支援の推進	1 2		3.4	3.2	3.3	○　奉仕作業や立ち番指導、地域の方が参加してのふれあい活動等、児童の健やかな成長のために、家庭や地域と連携して活動の充実を図った。	○　奉仕作業等を計画していただいたことで、連携できている。今年度は大太鼓踊り保存会へ多くの方が加入してくださり感謝しきりである。草刈りでは、学校職員がご尽力くださり、校庭の環境が保たれ、感謝している。 ○　「アオバズク」の発行、ホームページの更新に力を入れておられ、感心している。特に味のある「校長室のつぶやき」は微笑みながら拝読している。地域への積極的なアプローチを今後も続けていただければよいと感じている。 ○　ホームページやアオバズクで日頃の状況を見ることができて良かった。 ○　学校便りが毎回、楽しみである。児童の様子はもちろんのこと先生方の研修や校長先生の子ども時代の思い出からの学校経営につながる思いが伝わってくる。 ○　地域の方々とのふれあい活動や、すみれ保育園の園児との交流もさせていただき有難い。 ●　ホームページのこども郵便局説明が現状にあっているのか。 ●　多忙な中で、こども郵便局運営は先生方の負担になっているのではないだろうか。郵便局が始まった経緯を踏まえ、今後継続必要性について保護者の意識調査をし、継続、終了を決定する段階にあると考える。なお、継続を希望する場合は，代案を出していただくと解決の道が増えそうだ。 ●　学校運営協議会としては、①人材バンク②子ども郵便局③奉仕活動（地域依頼を２回へ）④登校班等の議題があがっている。 ●　学校運営協議会も少しずつ形になってきているとは思うが、連携という面でみると、まだ課題は多い。 ●　学習支援・ボランティア募集における連絡体制の課題と必要性→地域住民に迅速に連絡する手段がない。→地域住民向けに、学校から直接・簡単に連絡できる仕組みが必要。地域に支援コーディネーターを設置し、人材を個別にあたってもらう方法も考えられる。	3
		1		3.4	3.1		○　ホームページの定期的な更新や学校便りの発行をはじめ、学級通信等を通して情報発信を行った。		
		1 2		3.3	3.5		○　学校運営協議会の組織を編成し、学校運営協議会の役割をしっかりと共通理解した上で、保護者や地域の方を巻き込んだ活動が形になりつつある。学習支援やすみれ保育園と連携した研修等を実施することができた。今後、「こんな子どもを育てたい」という「目指す子ども像」を目指して熟議と協働を重ねていきたい。		